

麻布大学

求人のためのご案内

採用ご担当者の皆様へ

●獣医学科 ●動物応用科学科 ●臨床検査技術学科 ●食品生命科学科 ●環境科学科



2024年4月開設予定

獣医学部 獣医保健看護学科（仮称）
- Department of Veterinary Nursing and Health Science -

獣医学科 Department of Veterinary Medicine

獣

医学の基盤となる動物の解剖学・生理学から、感染症およびその予防につながる衛生学や公衆衛生学、さらに内科・外科学に至るまで、動物・ヒトの健康や疾病について幅広く学びます。近年は動物の診療とともに、畜産分野における生産性向上や食品の安全性確保、さらには製薬企業などの生命科学分野研究において、獣医師が果たす役割が大きくなっています。これらのニーズに対応できる人材を育成するために、獣医学科では教育・研究の両面で学生をサポートしています。本学獣医学科の特徴として、初年次や5年次以降の産業動物に関する臨床教育など、実践に即した教育が挙げられます。また学生は3年次から研究室に属して経験を積むことで、自ら課題を見出して解決する能力を身に付けられるようにしています。このような獣医学を通じて習得した基礎的ならびに臨床的な知識を生かして、製薬会社や食品会社などの企業、研究所で活躍できる卒業生を幅広く輩出しています。

小動物臨床実習

▶映像技術で動物の負担を軽減◀

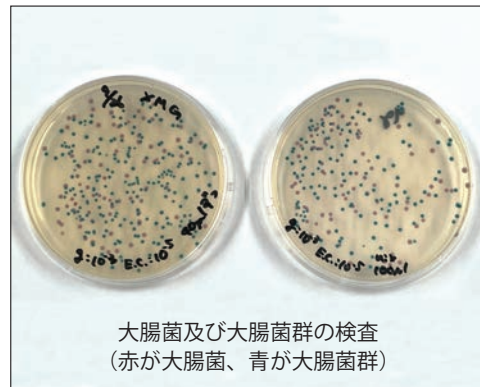
吸入麻酔を実施する際に重要な手技である気管内挿管は限られた実習時間で何度も体験させることは困難です。また、全身麻酔は動物にとっては大きな負担となります。本学では動物の負担となる手技についてVRゴーグルを用いて360度カメラで撮影した映像を視聴・疑似体験することを併用しながらより深い学びを実践しています。



獣医公衆衛生学実習Ⅱ

▶測定・検査で人と環境の健康維持！◀

大気や水を対象とした環境測定と、乳製品などを対象にした微生物学的ならびに理化学的検査について学びます。それぞれの検査や測定方法の原理を理解した上で基礎的な手技を身につけることを到達目標としています。測定結果を基に定量評価ができるように、実験中に問いかけたり、レポートにフィードバックしています。



大腸菌及び大腸菌群の検査
(赤が大腸菌、青が大腸菌群)

卒業後の進路とその傾向（過去3年分）



動物応用科学科 Department of Animal Science and Biotechnology

本

学科では、学生が社会で活躍するために必要な素質である情報処理能力のリテラシーと、協力やチームワーク能力のコンピテンシーを教育の軸に据え、動物科学を網羅的に修学した『動物生命実践的ジェネラリスト』を輩出しています。その目的を達成するため、動物系大学では日本初となるSTEM型教育プログラムを取り入れています。初年次から「動物応用科学実習」などのグループワークやアクティブラーニングを充実させています。また「卒業論文」においては、課題発見・解決・代替法の思案・データ分析にかかわる能力の育成にも力を入れています。このジェネラリスト育成教育を通じて、卒業生は、製薬業界や食品業界、教員（中学・高校の理科）、家畜人工授精師、食品衛生監視員（公務員）・管理者、実験動物技術者、ヒト生殖補助医療胚培養士、動物検疫官（国家公務員）として、動物および生命科学に関わる幅広い分野で活躍しています。

遺伝生命科学実習

▶遺伝子解析技術を実践的に学ぶ◀

動物組織からのDNA、RNAおよびタンパク質の分離。分光光度計を用いた濃度測定。ゲノムDNAの遺伝子型の判定、RNA試料を用いた遺伝子転写産物の増幅定量など、生命科学分野で広く使われている解析技術と分析機器の適切な取り扱いについて、原理を理解したうえで実行できる能力を習得します。



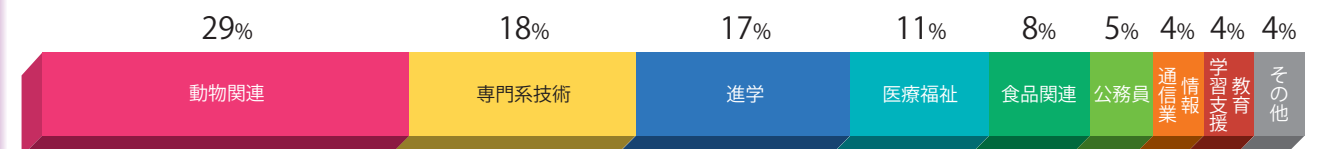
動物行動管理学実習

▶動物の飼育管理と共生について実践的に学ぶ◀

私たちの生活にとって有益な家畜や伴侶動物あるいは動物園で飼育されている展示動物といった、いわゆる応用動物の行動特性とその管理技術、およびこれらの動物との共生関係のあり方について、動物保護センターや動物園など、それぞれの飼育現場に出向いて実践的に学びます。



卒業後の進路とその傾向（過去3年分）



臨床検査技術学科 Department of Medical Technology

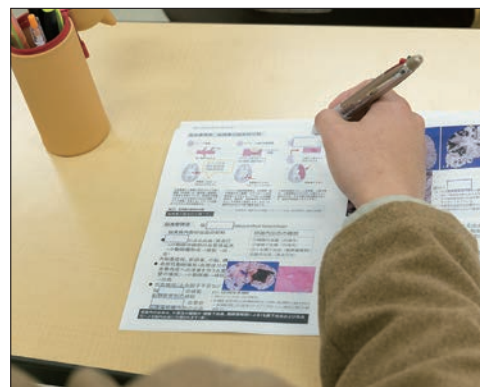
生

命や人権にかかわる医療分野で検査業務に従事する臨床検査技師は、高度な検査技術を身に付けているだけでなく、高い倫理観を有することが求められています。また、疾病予防や健康管理、あるいは治験受託機関、臨床検査試薬、医薬品の開発・製造を行う企業などにおいても専門技術者が求められています。臨床検査技術学科は、チーム医療体制の実践によって求められる高度で専門的な技術と、患者様にも他の医療従事者にも信頼される豊かな人間性を備えた臨床検査技師の養成を目指しています。同時に、臨床検査技師として他の医療関連分野においてもその知識・技術を用いて活躍できるよう、最先端の科学的な知識および技術を修得させます。研究室における活動などを通じて研究に対する探究心と自己成長力を培い、理論と実践のバランスのとれた技術者の養成を目指しています。

病理学Ⅱ

▶病気の診断に必要な病変の特徴を解説◀

病気の診断に必要な病変の特徴を、図・写真を用いてわかりやすく解説します。病気の原因（病原体や栄養素の過不足など）、病気が起こるしくみ（高コレステロール血症により動脈硬化症・心筋梗塞が起こる道筋）や病気の診断方法を習得します（課題解決力）。国家試験出題例も交えて、国家試験合格とともに臨床検査技師への道を支援します。



臨床生理学実習

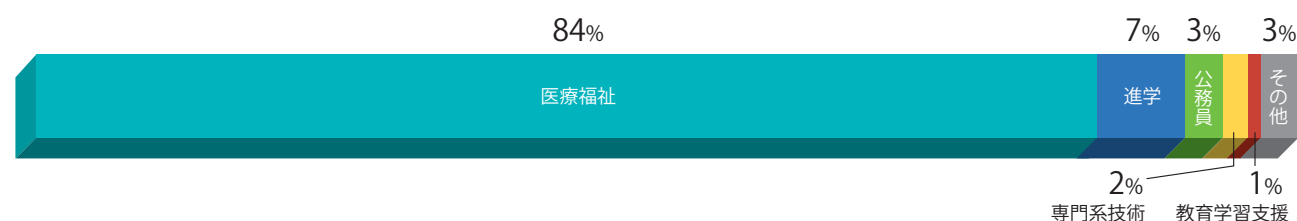
▶患者さんの気持ちがわかる検査技師になる!◀

患者さんを対象とする生理検査は、患者さん一人ひとりの病態を考慮しながら、より安全で丁寧な検査を行う必要があります。心電図や脳波・筋電図検査、呼吸器検査、あるいは超音波検査などの実習を通して、単に検査器機の扱い方を学ぶだけではなく、被検者を体験することにより、少しでも患者さんの気持ちを理解できるような実習を心掛けています。



卒業後の進路とその傾向（過去3年分）

第67回 臨床検査技師国家試験合格率 **90.8%**



食品生命科学科 Department of Food and Life Science

食

品生命科学科では、社会において即戦力となる食のエキスパート人材育成を目指しています。食を、「情報」・「機能」・「安全」の視点から多面的に学ぶ特徴的なカリキュラムを通じ、学生は基礎から応用まで幅広く深く学びます。卒業生は食品製造・開発・販売・検査、製薬・医療、行政など多様な分野で活躍しています。「情報」ではデータ駆動型思考の醸成を目指して、分析力と結果に基づく問題解決力を、「機能」では食品学、栄養学の幅広い学びから科学的論理的思考力を養います。「安全」では、HACCPを含む食品安全研修を通じて学生のうちから実用的な食品衛生管理技術を学びます。さらにより社会のニーズに応えられる人材育成のため、実践的な科目を開講し進化を続けています。文部科学省の「知識集約型社会を支える人材育成事業 出る杭を引き出す教育プログラム」において、1年生から研究参加プログラムを終了した学生も多く、卒業論文までの研究を通じた学びによって、コンピテンシーが醸成されています。

食品開発PBL実習

▶食品を開発するスキルを学ぶ◀

食品開発 PBL 実習ではオリジナル中華まんの企画、製造・販売までの食品開発プロセスを学びます。食品開発の意義、ニーズの把握、コンセプト作り、試作、製造、コスト管理や販売促進など食品開発に必要な知識を身につけます。この授業は、食品開発の第一線で活躍している開発担当者との産学連携授業として展開をしています。



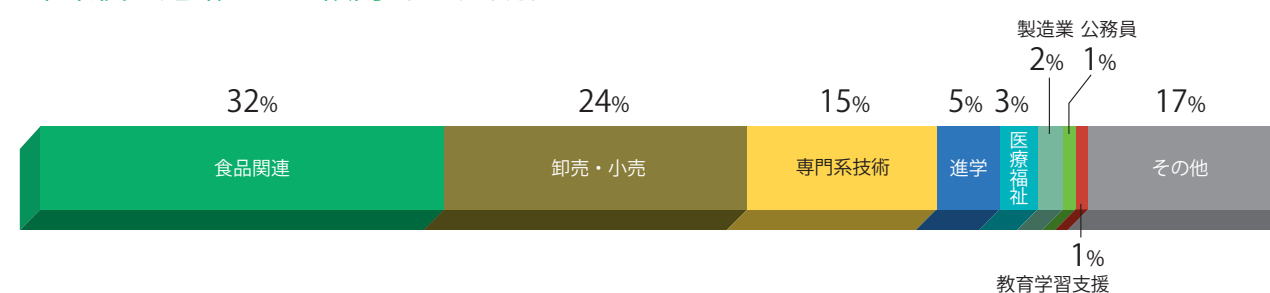
HACCP管理論

▶食品安全のエキスパートになる◀

低学年から学んだ食品衛生の知識をフル活用し、世界標準の食品衛生管理法である HACCP を学びます。HACCP 管理論では少人数で模擬チームを編成し、実践ながらのグループワークを行い、HACCP システムの構築を体験します。この授業は外部機関から食品安全研修として4年制大学で唯一認定されており、受講後は修了証が授与されます。



卒業後の進路とその傾向（過去3年分）



環境科学科 Department of Environmental Science

環 境科学科は、地球共生系において将来起こりうる課題への対応・適応を模索する新領域の科学、「未来共生科学」の実践に向けて、“環境衛生”学的な視点を養い、自然環境や生活環境を“分析・評価”するための伝統的な教育・人材育成に加えて、2019年度からフィールドワーク教育や、企業と連携したPBL、データサイエンス教育を導入し、学生自らの実践力・行動力を高める教育に取り組んでいます。本学科を卒業した学生は、環境分析や環境衛生に関する知識や技術をベースとして、理化学的・生物学的な分析・評価業務、自然・生活・産業の各場面における環境の維持管理・改善業務などで活躍できます。また、フィールドワークおよびデータ分析で培ったスキルを生かして、環境調査・アセスメント業務にも対応できます。さらに、PBLや研究室活動で身に着けたコミュニケーションスキルや問題解決能力を生かして、社会・環境問題に取り組む行政機関や環境教育分野の他、広範な分野の企業において、さまざまな主体と協働しながら活躍できます。

衛生動物学・同実習

▶有害生物の管理ができる環境技術者をめざそう！◀

ヒトに感染する寄生虫や、病気を媒介するダニ、カ、ノミ、シラミ、ネズミなどの有害生物を対象とした講義を行っています。これらの動物の发育過程や生態を学び、どのようにしてヒトに病原体を運ぶのか、どうすれば感染を防ぐことができるのかなどについて理解を深めていきます。実習では、実際に生きている寄生虫や衛生動物を顕微鏡で観察します。



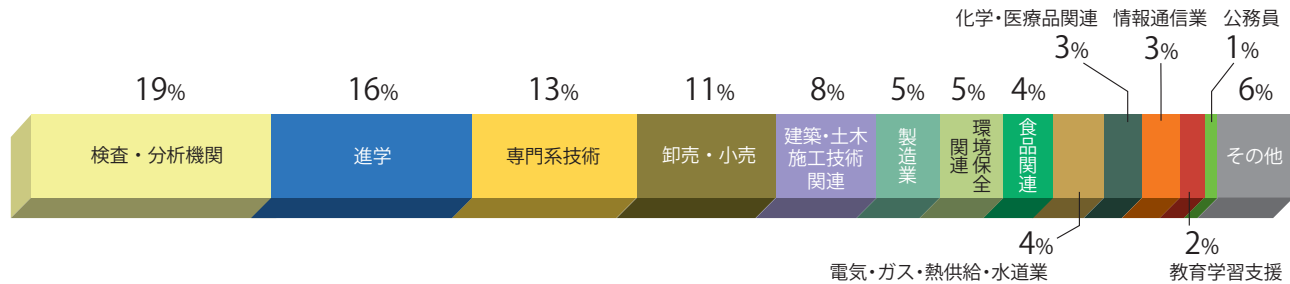
環境計量分析学実習

▶化学の視点から環境保全に貢献しよう！◀

この実習では、水・土壌環境における汚濁指標や環境汚染の原因物質を取り上げ、その種類や量を正しくはかるスキルを学びます。法律等で濃度が規制されている環境汚染物質は、ごく低濃度であっても長期間にわたる曝露により私たちの健康や生態系に影響を及ぼすものも多いため、それらの測定は将来にわたって健全な環境を創るための第一歩です。



卒業後の進路とその傾向（過去3年分）



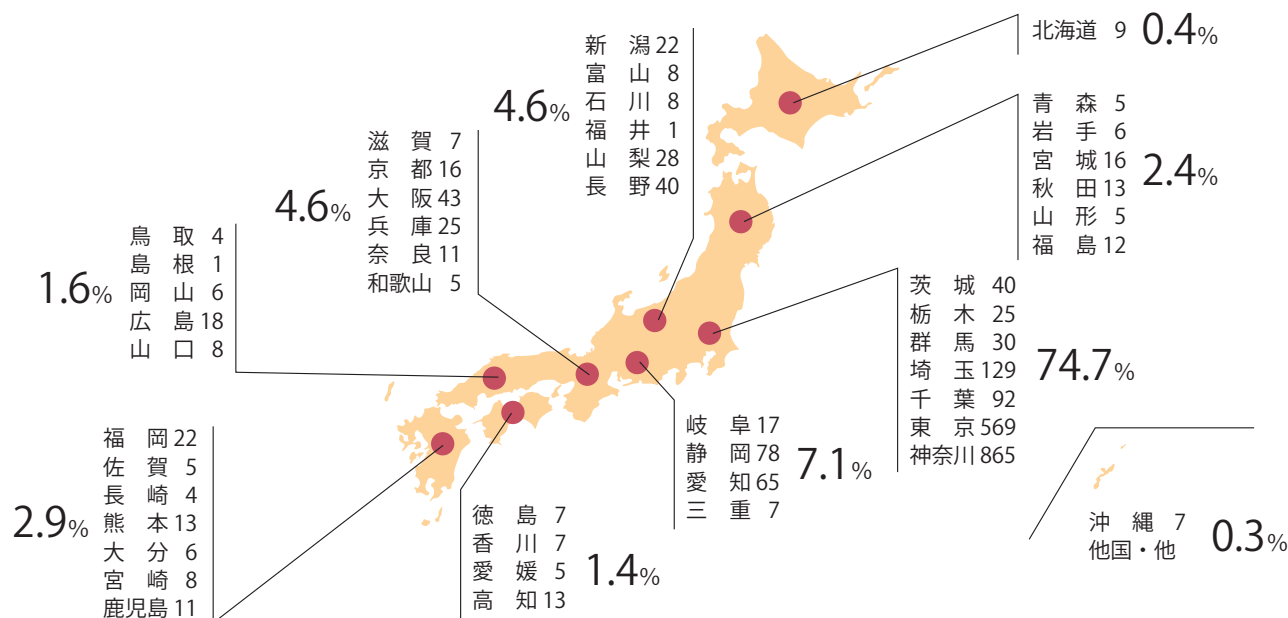
		獣医学部					生命・環境科学部				
		獣医学科	動物応用科学科	臨床検査技術学科	食品生命科学科	環境科学科	獣医学科	動物応用科学科	臨床検査技術学科	食品生命科学科	環境科学科
資格の種類	資格名 (国…国家資格 公…公務員 □…必要となる実務経験年数)										
受験資格 定められた科目または課程を履修することで受験資格を得ることができます。	獣医師 国	●									
	臨床検査技師 国			●							
	第1種作業環境測定士 国 1	●	●								
	労働衛生コンサルタント 国 5	●	●	●※1 ●※2	●	●※2					
	普及指導員 国 4	●	●								
	甲種危険物取扱者 国	●	●	●	●	●					
	実験動物1級技術者		●								
	上級バイオ技術者認定試験		●		●						
	生殖補助医療胚培養士 1		●								
	健康食品管理士				●						
	酵素取扱者				●						
目標とする資格 国家試験に合格すると取得できます。受験資格は特にありません。	環境計量士 国										●
	公害防止管理者 国										●
取得できる資格 定められた科目または課程を履修することで取得できます。	家畜人工授精師 国	●※3	●								
	第1種衛生管理者 国			●							●
	社会調査士										●
在学中に取得を推奨する資格	有機溶剤作業主任者 国		●			●				●	●
	特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者 国		●			●				●	●
	石綿作業主任者 国										●
課程を履修して取得できる資格	中学校教諭1種 理科	●	●	●	●	●					
	高等学校教諭1種 理科 農業	● ●	● ●	● ●	● ●	● ●					
任用資格 特定の職務に任用、任命される場合に必要となる資格です。資格を取得しただけでは公称できません。当該職務に任用、任命されてはじめて資格を名乗ることができます。公は公務員の中から任用されます。	食品衛生監視員 公	●	●※4	●	●	●					
	食品衛生管理者 国	●	●※4	●	●	●					
	環境衛生監視員 公	●	●	●	●	●					
	環境衛生指導員 公	●	●	●	●	●					
	と畜検査員 公	●									
	食鳥検査員 公	●									
	狂犬病予防員 公	●									
	薬事監視員 公	●									
	家畜防疫官・家畜防疫員 公	●									
	種畜検査員 公	●									
	飼料製造管理者 国 公	●									
	家庭用品衛生監視員 公	●	●	●	●	●					
	動物愛護担当職員 公	●	●								

※1 臨床検査技師資格取得者は、受験科目一部免除 ※2 第一種衛生管理者資格取得者は、受験科目一部免除
※3 獣医師の資格を取得した場合には同様の資格が与えられます。 ※4 食品衛生プログラム履修者のみ

学生数

2022年5月現在

所属／学年	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	5 年次	6 年次	合計
獣医学部	獣医学科	155	154	152	139	146	877
	動物応用科学科	164	133	126	128	—	551
生命・環境科学部	臨床検査技術学科	107	101	97	77	—	382
	食品生命科学科	50	64	62	77	—	253
	環境科学科	85	55	74	75	—	289
計（学部）	561	507	511	496	146	131	2,352



採用で担当の皆様へ

●求人申込について

本学では「求人受付 NAVI」を導入しております。「求人受付 NAVI」<https://www.kyujin-navi.com/uketsuke/> から求人情報の提供をお願いいたします。また、「求人受付 NAVI」を使用しない場合の求人情報の提供にあたっては、本学 HP より様式をダウンロードいただき、御送付いただきますようお願いいたします。なお、会社案内等ありましたら本学に御送付いただきますようお願いいたします。就職閲覧室に備え、活用させていただきます。

●採用可否について

採用可否の通知は、学校推薦、自由応募等に限らず、キャリア支援課と本人の双方に御通知くださるようお願いいたします。

●就職・採用活動について

本学では、就職問題懇談会の申合せに基づいて就職・採用活動への対応を行っております。つきましては、学生及び大学院学生の採用活動について、趣旨を御理解の上、御協力をいただきますようお願いいたします。

学長挨拶

Message



麻布大学長
川上 泰

本学は、地球共生系～人と動物と環境の共生をめざして～を教育研究の理念とし、生態系と人間社会の接点で生じている諸問題に取り組む、若き人材の育成に努めております。

21 世紀初頭の基本的な課題として「持続可能な発展を遂げる社会の構築」が提唱されております。地球温暖化防止、生物多様性保存、世界遺産保護及び新興・再興感染症対策など、まさに生態系と人間社会の新たな関係が模索され、新たな観点からの倫理観、哲学が求められる時代となっております。

本学は 1890 年の創立以来、首尾一貫して教育研究が単なる学問としての探究に終わることなく、社会に役立たせることを建学の精神として人材の育成に努めてまいりました。

130 余年に至る教育研究の過程で、獣医学、動物応用科学、臨床検査技術学、食品生命科学及び環境科学分野へと教育研究の場を伸展させ、全ての生命とその命を育む環境の分野で活躍できる、感性豊かな人材の輩出を心がけて指導を行っております。

どうか本学の教育理念を御理解いただき、職員の採用に際し本学学生に格段のご高配を賜りますようお願い申し上げます。